

令和元年度 大学院共通科目 国際研究プロジェクト 公開報告書  
「ソ連解体とウクライナ独立に関する研究」

人文社会科学研究所 国際公共政策専攻  
博士前期課程2年次生 田路 真也

## 1. 渡航先

ウクライナ・キエフ及びロシア・モスクワ

## 2. 滞在期間

2019年8月23日～9月11日（20日間）

## 3. 背景

1991年12月にソ連が解体され、ウクライナをはじめとする旧連邦構成共和国がそれぞれ独立を果たした。従来のソ連解体過程の研究においては、ソ連中央やロシア（及びその主要アクターであるゴルバチョフやエリツィン）の役割に重点が置かれたものがほとんどである。本研究では、ソ連第二の連邦構成共和国であり、かつソ連の解体過程において重要な役割を果たしたウクライナの独立という観点からソ連の解体過程について分析する。なかでも1991年当時、ウクライナ最高会議議長の座にあり、独立後初代ウクライナ大統領に就任したレオニード・クラフチューク氏の役割に着目しつつ分析する。

## 4. 目的

本調査は、(1)レオニード・クラフチューク・ウクライナ初代大統領へのインタビューの実施と、(2)現地の図書館・文書館等での文献調査の2つを主たる目的とする。

## 5. 概要

### (1)インタビュー調査

クラフチューク初代ウクライナ大統領への単独インタビューを実施することに成功した。1時間強もの時間を割いていただき、1991年当時のウクライナ及びソ連国内の情勢や、当時の自身の認識、また、現在のウクライナの政治情勢等について非常に有意義な話をお聞きすることができた。

### (2)文献調査

#### ①主な利用機関

(キエフ)

- National Parliamentary Library of Ukraine
- Central State Archives of Public Organizations of Ukraine
- Central State Archives of Supreme Bodies of Power and Government of Ukraine

(モスクワ)

Russian National Library



National Parliamentary Library of Ukraine 本館

## ②主な内容

上記図書館及び文書館においてソ連解体及びウクライナ独立に関する資料調査を行った。特に様々な会議の議事録や、ウクライナ国内の東西それぞれの州における地方紙の網羅的調査、クラフチューク元大統領自身のもを含め、独立前後に政権中枢にいた人物の回顧録等を中心に調査した。

## (3)その他

キエフ大学の学生たちと意見交換をする機会にも恵まれた。そこでは、ウクライナや日本の現状や両国関係の現状と将来のあるべき姿、両国を巡る国際情勢など、非常に多岐にわたる議論を行うことができ、有意義であった



Russian National Library 本館

## 6. 成果

今回の調査はソ連解体及びウクライナ独立に関する修士論文執筆に資する資料の収集を主目的として行われた。調査は大きく①インタビュー調査と、②文献調査とから構成された。クラフチューク元大統領へのインタビューをはじめ、様々な会議の議事録類の収集や、地方紙の網羅的調査を行うことができたし、クラフチューク元大統領本人のものを含め、当時の政権中枢にいた人物の回想録の類も多く調査することができ、当初の目的は達成することができた。これらの成果を修士論文の執筆に活かしたい。